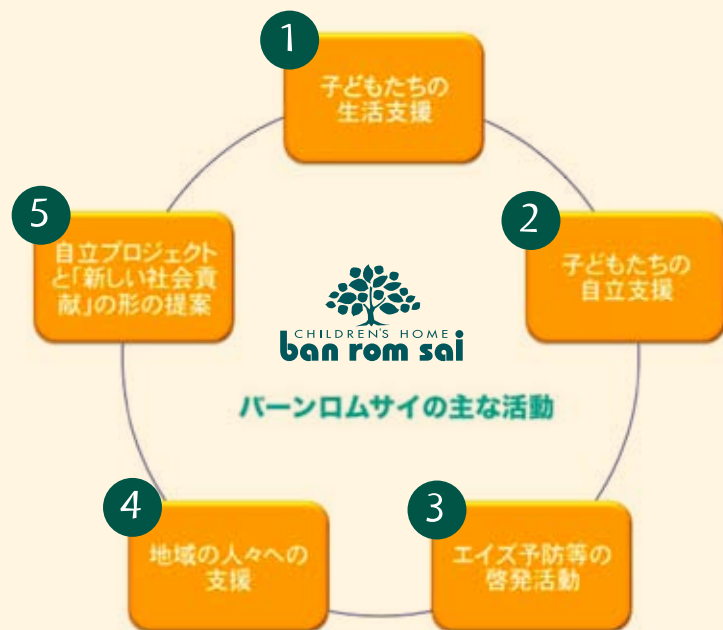


バーンロムサイとは…

バーンロムサイとは、1999年タイ北部チェンマイ県ナンプレー村に開設された、両親をエイズで亡くし自らもHIVに母子感染した孤児達が暮らす生活施設です。単なる「孤児院」ではなく「大きな家族の家」という方針のもと、7歳から19歳までの30名の子どもたちが施設のスタッフとともに暮らしています。現在は全員が学校や幼稚園に通っており、高校や大学へ進学した子もいます。

また、バーンロムサイは福祉施設として認可されたタイの財団法人として活動を続けています。



バーンロムサイとはタイ語で「ガジュマルの下の家」、安心して過ごせる場所という意味を込めてつけた名前です。

BanRomSai means "House Under the Banyan Tree" in Thai, a symbol for a safe place.

1 子どもたちの生活支援

開園当初 AIDS を発症し10名の子どもが亡くなりました。2002年から始めた抗 HIV 療法により、現在子ども達は将来に夢を持ちながら元気に生活しています。しかし彼らは一生、毎日12時間ごとに薬を飲まねばならず、飲み続けることにより耐性の問題も発生しています。ウイルスに対する耐性が出来てしまうと、より強く、高価な薬を飲まなければなりません。身体の成長とともに新たな問題も発生しています。バーンロムサイではタイ人と日本人スタッフが協力し、子ども達の生活を支援しています。

2 子どもたちの自立支援

いまだに根強く残る HIV/AIDS に対する差別や偏見。進学や就職の選択肢が限られている現在、彼らが困難を乗り越え自信を持って生きてゆけるよう、好きな事、得意な事を見つけ、それを職とすることへの支援は欠かせません。バーンロムサイでは大勢のボランティアの協力を得て、様々な職種に触れる機会を多く作ってきました。ホームの自立運営を目指して作られた縫製所、ゲストハウスなどは将来子どもたちの職場として活用してゆく予定です。これらの事業施設は「親」の働く姿を見て「お金は天から降ってくるものではなく、働いて得るもの」である事を学ぶ場でもあります。

3 エイズ予防等の啓発活動

バーンロムサイのあるナンプレー村でもエイズ問題、また感染源となる麻薬の問題などが根強く残っているため、ホーム内のコミュニティスペースを利用して、タイ人スタッフが中心となり地域の人々にエイズや麻薬、健康に関する啓発活動を定期的に行なっています。

4 地域の人々への支援

バーンロムサイでは、HIVに感染し職を失った女性、差別を受けている少数民族や貧困家庭の女性を積極的に雇用し、縫製技術が身につくよう支援しています。貧しい家の子どもたちへの給食や就学が困難な家庭の子どもたちへの奨学金支援(年間30名分)も行なっています。年長の子どもたち参加のもと、山岳地帯の少数民族の村にトイレの建設や物資の支援を定期的に行ない、タイ国内の様々な現実を知り、助け合う事の重要性を体験する教育にも力を入れています。

5 自立プロジェクトと「新しい社会貢献」の提案

バーンロムサイは、社会情勢や経済状況によって左右されがちな寄付だけに頼らず、自立した運営を目指して事業を行なっています。

- 2000年に始まった<物づくり>。数地内の植物を使って草木染めをし、それを製品化するために縫製所を設けました。現在はチェンマイの気持ちのよい布や少数民族の古布、手織の布を使用した衣類や雑貨など、洗練されたデザインのオリジナルプロダクツを製作・販売しています。

- 2004年、支援者から寄付をいただき建築したコテージを<ゲストハウス>としてオープン。縫製所同様、子どもたちの職業訓練や仕事場となることを鑑み、その収益を運営に利用しています。この事業は、地域住民の雇用促進、生活支援にもなり、皆様に「買って、利用して楽しんでいただくこと」が支援につながる、ごく自然な社会貢献の形を創出してきました。

